

誹諧叢句帳

春上

中村俊定文庫

文庫 18

36

1



詠諧發句帳題目録

春部

元日 若菜 子日 初寅

千寿万歳 毬打玉 白馬節會 踏舌首會

左義長梅 雪 霞

去氷 去西 松の緑 木目

蕨 柳 去子 去筆

若和布 去月 坡原 雑子

長壽	蝶	佛別	松
初午	花	栴	栴 <small>付栴貝</small>
梨花	辛夷	海棠	桃
杏子	躑躅	菖	欵冬
莖	茶摘	蛙	去郭公
魯去	雜去		



誦讀教の帳卷之上

去

元日

去の日の婦人からかきわけの去
 くよると教若中のかりりか
 のりりかひりりかひりりか
 去立やあらん目出度門乃去 徳元
 去のひる日本晴やあふの去 去可



大上戸東よありやありあり
志の縄やききをもくろいぬ乃
姫はめせんや門は松ふらり
先へ川や梅うをかくこふ乃
うて子たあふのうむ乃喜れ庭
くまに何をにるあそ三十日
ひらひら餅はまろこ乃切尺外
あめの喜なきうく立り天り下
長喜

あの子とねあけいそふむ月式 幸和
天等やかすきをそめく和合樂 童頼
まこくらすのあともふれい云 吉厚
おんまうとまうううなれけのま 望
まも本もめてたはう也ああま 良長
あふ咲ふつよあねや花乃兄 一
礼候とかがさりわらにもくうはは 道
あ乃あよ々胡るまやぬ建鞋 良徳

叔乃子ハ二親をいふ子ハ姑ハ氏重
志のありき紙より紙とやあふむ心重
師をいふ心月きこる小神の家 心信
心も今もえあけしめ心月ハ宗想
心もあふあふ玉もつ子ハ外 喜益
心方にまをさるる月あふ心 利法
心よ心月ハ心朝らるまは巻巻心 重次
心て心朝二夜見乃心月ハ 貞継

米俵をえ方ハ心叔乃あひ心心一定
心いぢえまやハ心あふあふ心一之
心あ縄ハ心心と心心心心心 常務
心あけて心心心心梅や左曆 心友
心水をむす心心心心心心心 元政
心方ハ心心心心心心心心心 市次
心餅ハ心心心心心心心心心 休音
心心心心心心心心心心心心心 一村

書そめや先人よき心しを紙 宗者
大しくよ先人あつ川ありた哉 宗富
霞くじそのは不りやあり者 宗富
くいさめや徳可貴乃そふれ哉 忠海
かきそのやかすこをかくびせのしき 當直
あひくやに言にかさるし 有 定門
常乃武業乃あつ々朝乃起 宗祐
お海のそまも也去の日乃光 常久

と朝とるはらやとるはせむ 貞徳
あつ々まゝにさやとるのひ 日
大思乃持やはらのえとる乃年 日
梅もと朝あつはらとるやとるのひ 日
楊弓をこるさもふか亥乃日比 日
着水のえとるも涌てえ方外 日
鳳凰も物よ長閑きとりれ 日
あつ々ひのかりくさるおれな 長可

常や梅よすいさんあ乃去日
あ水よを乃波くむひーやく日
ふも々朝こすやあはふり酒日
あふ々や諫報若むまとり妖日
日乃あーも々朝うあさらのあは親を
月も日も天下一也あ乃去日
今去乃ふひあらんあうれあ日
去水とりあやここのあさり縄日

ゆけりあや次才よ家あさり日
あてたつをけふあさるやああひをきれ
去乃日れ威光を足するあさる日
あさる去いさるを遊割一あさる日
三川のの乃酒を先酌をあさる日
若あを先くあけああああ一
常も曆をものうああ乃去日
ああああひうくい梅のあ例あ日

自こゆる是喜するやを初乃五日
常も初喜よ口やあき乃五日
一番よ年よりくそ喜の初日
子におよよすてりあれ鏡なる徳元
花梅やよとひこして花乃五日
く徳もよき初とくおの日外 休音
よ乃今時を流るやとりた日
うらたるもあふより喜や年たの公意

花をよとくお梅のじ日
手れ程し〜いよもの〜日
め〜あ〜やこら映るあ家れ風 宗富
若水の出たやむすよけ久縄日
く田力竹ヶせかりに志乃五日
甲十二乃屋く〜ひせんも花云日
あか〜をさる〜や若れけりら 宗交
ま〜よりとら〜め〜い〜と〜日

あつむ子かりてきやとりた日
後乃神をあらふのせらるやむたの良徳
よるまや枕原あつて二度乃け日
の徳に言乃あや引か物日
と初いふはるむれとるやれ者正並
ふもちもとのえとるはま日外日

六十一又みく

連きあつてみ返めくるとみか

六十二又みく

舞かちてまちくまうへん乃ま日
とつ乃との酒乃のくむとすま日
舞まのあよ書をあするや申たの款並
酒乃字をたつむら乃乃曆外日
長風よとてしつや午たの政
ひうととるまていむや午たの
長乃まてまのいけく申たの

是乃きくひげらすこ乃夜
よひ中一紙くくせんは試筆
きえけいめくやうむ信法榜
おもしろくまゝのやらつくつと
と初くじやとそ川夫あ立妻
世界をやあふ蘇乃内北角
たわく乃茶のあはさや梅屋
さくらやと妻乃せいしく
長吉

寛永の十かり立や門乃松日
日乃教やと朝あつひはと申其
あふ言に云いさ乃とのまは
立たふやも寛永八をかす
よ乃名や申さふまは日
めりらるるいひ乃車
寛永やあけ七又乃年
何國よりあふまされや

を—あけてと朝なるはたる戸成成
いむちりいあきさるる乃の始成—正
父母よ—をかくこのりあ成成
天つ下てくらせ日吉乃さるれ成日
正月よいさふにかすの子ともふ成日
よ去乃る路地乃のりり乃松幸和
只をともせてさるるやあふの去日
かけてくらるる日いむまのあ—成 貞徳

さるるり見てやまるとり成日 貞利
我朝よ立や小圃乃とり乃成 忠之
と朝乃よ去いあふじ—乃 貞章
。宝をやと物とそ—の考れ— 一定
う—いそめい今り先とりの 道職
あらむ乃よれ—らや考甲 貞之
よ去乃る果内よ—乃 貞之
あらの文とあふ—乃 貞之

常とよのちてとらりたる長運

若蒙

子世とほじある下女乃る同なる
七くさい唐志乃る世より
はよあるおねや林音伴乃る
式人蒙をせらるる

よとありせし

あくさんかかある事乃る同なる
あつめのもるぬめくわつあつあ
かむせあるめあつあつあつあ
源氏あつあ上下に
搦袖乃紋あつあ
あつああつああつあ
あつああつああつあ

くまらひ八十一期よりなる那 之家
も之出く又行やまのしる家外 出松
ふ毎よもたきあすの縁業外 永流
はくあきなぐひつくわな外 真使
うまよそし口をもたぐくま外 日
矢よあつてかあを引くわな外 宗留
まゑのあり神よほむこる外 日
俗人よふをやらくわな外 氏を

似合ぬらまほむこるわな外 幸和
このあももあふ七まの乃わな外 日
おひわるもあほのあせらわな外 日
あしと揃えそくれ源根芥 日
あくきさくいあまのおくか 親也
くくあはむいそとんゆるあま外 臣友
あまのひ乃あありあまの縁業外 定一
七指をたぐく拍子乃すなる外 光貞

くくもら乃月貫の蝶の二はひ使一
巢もとりやちれ下るる常葉 吉久
賣よきて花を一奪れ終るは宗明
尋つめちよとをかくさ仰れ是日
は友乃お者よせん之弟ふ行 ちれ

和云師乃宿あま

まのせん用う海をいすなるる日
也と扱ひ乃き一此枚をと産ふ成ぬ

行約乃に引とむる川なる 常好
客来れ終りるをいんわなるは都
少るち強いのこきなるうらなるは 宗明
ふ乃内よ摘も終結や仰れ是 當直

子曰

甚乃日大あふひて終のひな
松根よ腰をすすめくねのひは

御舟をさげと宵初子に玉帯
いづれくは次舟よ松乃ねのひは
松あうて所へ餅ひく孫乃ひは 貞徳
孫のひよは是をやとむるを食か 偷用
かふらふ松もあふねのひは 一威
門去乃尺あうも又ね乃ひは 正徳
あふらふや常備も孫乃ひは 日
男松女松野よ川よきくねのひは 忠吉

あふひけと小う乃矢さくねのひは 忠吉
あふひけと小う乃矢さくねのひは 忠吉
川おせあまりねのひは 忠吉
さふ砂や実も孫乃ひの松をやし 忠吉
さふよりとよくねはひよひの松 忠吉

初宣

く川とらねは障てもおれ難るち 貞徳

妻万歳

初まはれと舞や万歳は親言
万歳は先うまそや京代町一村

毬打玉

あつむをおみちらやうかひか一村

白馬節會

白馬をひくはくはくも月毛の家を結

踏み節會

新踏よりあつむ一里は余り幸和

左義長

はさかしの唐土乃多れ毛やまの
ひ乃中や唐土とまやと爆竹 幸和

おのうふやーいふふふふふふふふふふ

梅

桃梅乃くまつことをは白ひふ
さす枝ハ红梅敷く自れくすり
わり梅乃そもふさくさくさくさく
名よおひくく人乃おつをともふ花を
ぬにと初ひくく名梅乃はよほ

伏て送進好又本の花乃るさ
ぬる名乃沉れはくくく梅は花
錢梅ハ大名竹乃お供那ー 貞徳
屋り梅はせよわけ出さる白ひふ日
香にに方に能梅さるぬ梅は日
敷乃中一お咲ややり梅に方竹日
勅作よりさる梅む乃白ひふ日
常よかけてふことさうめの日

水野あきく

紅梅や志を乃らうとこれ小神日
 ありけり花梅乃長枝うさ日
 白梅よ志うらへふむや合衣る日
 徒梅や先かけをする花軍日
 梅けけよ花をよもらや坪内日
 すいそくく當うらむあの花日
 あり梅乃香い雲乃る月あ日

我とかきくし白ひよむせふ梅のむ日
 梅う香いこられおるや坪内日
 ありすと白ん梅やけりの日
 徒梅乃らじのれうふらか徳え
 水野あきく

あり梅乃長枝やけりく足る思日
 水野あきく
 心連る梅の長枝や神くろ日

杉神のふゆひ袋、梅乃くふ棠甫
亦乃母とぬるひそめてを兒 友な
善てみよ蔭墨文乃備音梅 貞行
常ハ勅使うひくくまへ一梅 亦系
飛梅乃まほくろひさる未立 留沢
花並れえ、梅ひくく園乃竹 光貞
くもの成じああまわらる白ひ小 感六
梅の香をとびる外務の園は并 覚玄

梅のえはわつ花並やこく乃返 光貞妻
むめうえの南へさすハ日並小 正友
ををへ香をやり梅乃嵐うか 包一
江梅乃花えひくけハ米うら 笠日
咲梅れ兄いあふりとの文書小 日
梅の香よひふれくきませ牛天祿日
花よ歩ん所成ひく梅れ梢うか 波候
常ハ梅乃こぬられ月貫うか 盛親

松風よりうすや梅乃望とよ 宗仁
梅もやとらん柳れはさきと 元郷
花さるぬ梅乃こぬらひ吾作か 盛一
をさくとなをわひとをのむれん 文子
梅いぬくまのたう合香 進一
人毎よ自らやり梅乃盛か 孝昭
ゆきそふ梅乃こぬらひさほ 益光
落行なまけりる海乃梅れ花 成光

考るる中 今ふ梅乃さかひる 益光
常れより會雨やうれ梅 良徳
お梅の文あけするや夕日親 休音
鐘梅乃道具ぞ〜 小枝か月
お〜まゝなり梅よせよ花の枝 宗笛
吾風乃の〜あう〜い〜う〜ん〜ん〜ん
花の中はぬ〜さ〜れ〜ぬ〜倫音梅月
憲乃因の〜く〜ハ梅乃まの月か月

火とのとど周すのりんよ梅の月
新らうのす梅の香かきやうまきとる月
新まきの梅さうと木の眼青け月
行幸れ梅の物作乃お不ひ月
鐘梅乃枝やらさうと十文字月
久の梅よ酔い我とのそ梅の月

過文乃教の昔よりあ

さうわんとおとせられ

松乃木の梅やちやめん新れつま日
一といよあまうの坪れははは梅 なを
鐘梅乃石けきとるる岩のひつな 西也
よまきるハ心易よりも梅の月
常ハ実鐘梅乃とりもろふ 長吉
梅の香やまは祢庵の卓香炉 日
梅のつもと先懸飲やまは花 氏を
鐘梅や花ぬとらん乃自ら番 日

如斯なりて

落梅よ風ハ云々をきこぬを
君ありて誰に梅はとあるか
香をよそへかり梅よすか
紅梅をういふよすか
ありはるるや梅花皆つらん
梅をんよ人やきこぬを
當れよもとのをせぬ

中巻一よか梅や花
あはれ中の開かれや梅の花
名をえらる一番梅を梅乃花
香葉とんや梅花乃立枝か
長あてあや梅はるのいさ
梅の香を借りてせよ
香葉乃中よわ出る梅花か
と下一乃白ひは是を繪梅

鶯

鶯ふるけとくをよすりあふ
鶯れかうは華絶や朝日との 玄理
清華絶え鶯はよき歌うては 貞徳
鶯乃ふところをす福やうゝ袋 日
梅れ酔はるく鶯乃るまゝこ小了佐
姥竹は老乃鶯れ絲くくかふ 徳元
鶯れよする宿やむぬゝ 益 喜可

鶯と飛こくくせよむめの花 親道
うぐいと六連舟をすや在れ 日
鶯れ樂よあふせよ落乃舞 日
鶯乃絲くわいふん絶れ歌う 日
鶯とは回をせよはくくく絶 日
鶯のうき世いつり梅りり 喜
鶯れ又乃小袖ハ摺繪の那 宗恕
をのけく鶯舞や園乃竹 道一

常乃初音や強乃一はまき松一
ふんじや柳れ束の風きき鳥の思
常の強ふんじやなれん
あや舞蝶常乃けいじん
常八月見日やかろ人奇 貞徳

具山あそく

雲山てきく常やいふ仲一 貞徳
常も梅うんじやおお庭水 貞徳

けしきぶらうき常や流乃起う 貞徳
常いふれとや琴乃ひきくく 幸和
梅はかよ常いるぬふさか 市橋
梅や先うんじやのふんじや題 貞徳
まやうこいなる常かう流舞強 貞徳
を乃きききくよきん合衣者 貞徳
常やはひよ好んする月と見 貞徳
常乃よれひやじふりつて 貞徳

常乃口よぬすらみり乃く急 宗
くひもの祢もさうりえ 宗
常ハ花乃錦一れをりて小 一村

二月十五日

法華經と啼一常れ袖もか 永

霞

去凡よ妻乃神やうてまうり

言言乃あつりあま一はあか

去乃霞ふよ

鬼乃月やさいひらあの一はあ
あてよこもんぬすは衣は
世いひる百天井をくく霞
引おのふあい山乃歌中
あうせぬハ風にあさくす
すえんすのあい山れ羽織る

山をつゝ海はあつするすゝ
月分すゝ船をうきそり筆は詠了佐
松烟乃枝をりけりすゝ日
盃よのれうすゝやたり酒 直述
志のゆん乃うゝひよのゝあは利流
之乃中をあげつゝ川の霞も未武
らきれゝる雲は霧やけき小神 未林
とよふくれゝくするすゝ水 文主

むゝ〜燈もあそ一盃乃初あ 休甫
あゝ乃奈酒乃かゝの霞も 衣次
よ風いすむ目の月乃くすり水 宗富
あゝわくゝ白乃のんゆゝ初あ 宗行
あゝ海りけりすゝい眉ゝ電門山 宗富
山く乃歌うけりりゝ喜あ 政忠
破るゝく霞乃海やけり水 宗秀
あ付け天井ゝるれや喜うすゝ 松若

一夫よかすこれ網をたぐる日小親重
永き日によろしくかゝる妻か日
佐保姫乃十二ひそへり雲霞日
天乃戸のくま布るれや去あ日
羽もあもあつてまゝるあか日

三編あきく

三編山て松ぬりするや去あ日

兵庫よきく

くく息の鏡楊の峯れよ去あ日
あまあの日氣なるはやうとああ 幸社
口庵うやうすむ入日乃屋の詩 政倫
まかしくとああハ山れおほひは 尚進
松乃あの日たなよあまのあまの 一村

残雪

まららるる雪まらるる清きさ仏文世

本末乃あしやかへるち併一具暖
山はたさるやとけてちれあ 西友
苔よ残るちや日はれちんやし 弘政
土河くいつちる瓦乃形乃ち 久永
雪綿を登くは云日れ仕也亦 武孝
山をうひれ白目なうしつ云れち 正尹
ちきしてあやしく山乃あははら 定門
あつまのうらりとして

雪汁も湖かとやあし乃山 意れ
あちちれあつりて消ぬや茶巻松 報栄

云氷

水あころちりてなうれぬ妙哉
氷とくぬあはいつちるあうし 貞徳
水はよとらるや々翻乃妙餅 甚可
とげよくきんくを云れ日新水 休甫

落氷をせむるまはれ日よのふら
か川とらふ夢や氷のけりゆ一
まといふとくうしけむるまが二

まはる

とく乃ちまのしやまはれ
一ありいまのまはれこころが
あふれいふまはれ乃ち尿うま

まはるやけの田舎のまはるすの政
まはる乃ち日やれもまはるい 宗
まはるハ花をいれまはる花脚か 宗
まはるれあふいなるいやまはれ 之
まはるよめきてや秋巡乃ち中 永
まはるをなるいれまはれ暮もな 定
火振乃ちすけるれやまはれ 一村

松若緑

む松もろりや十八あ尺とり 正
佐吉乃まのたおそあなり 正
娘まはきりまにのやこ緑 幸加

亦目

露乃玉のかす。正あの日あぬか 親を
亦の目さへけりりて屋せぬ家か 日

立ろくおますあやふむとんり 親也
よるあやすむあの日れけ茶 吉時
吹風やかとむまは目乃るれ茶 武富
よもまのんげてんああの日か 吉親
あるあにあの日もほもくる日か 政長
まえんぬるぬまはあの日えこひか 政順

蕨

ふもとをわらや苔ねたあたる健蕨
おさあひは先まのうせよわく餅
もえいそくもあつりいそめわらひ小幸和
ふのせやや蕨よかたる味のいと日
おりそくへ花乃白ひやも蕨政順
おろろい蕨よやなこころて力一正
あけくへてあやば立居乃健蕨休甫

ふきつてゆふのあつひか 宗冒
もえ出らわらひやきやまもまじき 正孝
よ風ようてをーをすうわらひか 親を
そのう名てわらわらわらむむ谷水 宗利
んあひるー何乃白ひのかまわらむ 彦和
卯後や舞ふれ山乃まきわらひ 照是
ぬまてんつおらなまのまひらひか 宗明
あつきーとよまほくねら蕨か 苗連

柳

花乃らきにくる柳やひさし
 きれはをぬふやけこ乃京柳
 長面よあさひくけつ世柳
 おゆあさ影をかりやまあ柳
 ま乃ありも風まうや柳腰
 気かるしと誰かたまりこ柳
 花のる柳乃京や小若あ

長壽の川や柳乃かきほこ
 にくり川や柳れこのあさ汁
 長柳ふりふ髪れかあろふ徳元
 りえ出くもあさやまへく柳 日
 らやうと打や波乃鼓乃え柳 貞徳
 そのくえ神よるまにふや若柳 日
 川くして波乃あやをせし柳 日
 形によあまる柳やさやう 日

川尻のあゝ柳やみだしくやるる日
 若柳泣くくろねやいと柳一日
 露乃玉むらひのくくや若柳日
 打おりのあゝあゝくくくやるる日
 きりくわ乃柳が女のきり陸のそと
 軒よふあゝあゝくくく柳日

遊河能塚へ下向乃時

枝いたしと他河能の遊河柳日

去るの柳乃くくのあゝくくく休布
 氣力るまの風乃くくく柳日
 川やわの波くくく柳 休音
 咲花乃香よ極くや風又ま日
 去るやそむる藍汁の柳 去益
 桜おほく春のむくく乃く柳 元性
 去柳 欠くくくやきまのくくく
 あんひくく柳や春のくくく 休音

を乃くを枕よーてやし柳 親直
水よ枝あつやけりぬと柳 子世
川よはつとるやうき米柳 弘隆
浪乃あや織や柳成系ろく 中吉
はつあのをさむすひけく柳成 武富
珠の系あつせうにひけ系柳 南榮
喜ぬにありふこそ乃柳 多 宗明
随く舟よおりのけくを柳成 日

上あく尺よよきみりるを柳腰 忠海
彼君乃柳や保随乃はる系 長吉
喜風ハ柳乃髪の新風ハ系 氏を
柳髪よはるま月ハ少くハ 正
物ハ月ハ柳成系乃こふ 子 日
佐保娘乃奄えりけり柳 一正
うひまきあ竹をくくや系柳 未矩

葛城一見乃時

世の事

かほろまきの天狗をさし柳を
糸柳をのりまさらけ下結水日
火極やけまあま乃柳ひり日
常ひく琴乃弦やいと柳日
佐保娘やかろ柳はまかき親を
影うつまあや柳乃ひんぐ日
あつきハ柳はうこのまろくの日
やり梅よまけぬ柳はあちか日

松乃まあの針よはるるや糸柳日
山姥乃さげ帯あらん柳水日
あふうすまはうらあやしこ柳日
らる梅や柳乃糸のむすひむ日
あ風よ柳は枝やまろひら日
下まあを柳乃ま風をらり日
観音乃らうらや足するこふ柳日
帯と見る柳乃露ハ小玉あ日

しんせふよきやよふねのこふ柳日
川よけはくはくはくや糸柳日
柳髪吹くくくくや夕ありし
朔露やむとくひ下流は糸柳 幸和
宮前にんやまきし乃糸柳日
いっさうは是乾坤乃箱柳日
若柳は木ぬらにゆつて糸日
去風乃けけやじしりく糸柳 夏

ちけよ目をやういふ人こ糸柳日
花あけてゆや柳は糸せん日
松凡乃まひく柳や琴は糸 宗祐
やじしふも糸乃ふも糸糸柳 宗祐
かきくくくやじはきや糸柳日
蹴鞠乃らくはくはく糸柳日
ふもあくてちや柳はらく持長運
くくくも柳乃髪乃道具は日

若くは建祿見し建久もや川柳 政長
くむ酒乃多もみりりれ柳橋 光俊
見せさる目くら柳風すこい 一尉

さみこ川よく

梅もや柳乃下にもみり川 日

芸草

めんり乃のたぐらう吉し

めんり乃のたぐらうと森小蝶作

とんほや音もさるぬりつこ

よありとげ乃まうこさるたつた

りえ出る下い地こくら鬼あさこ

よあきよし我とるぬやあまの

花乃名小山路よさげと野菊水

中よう建落乃きうとあよあは

ぬく人をぬくらう美城すきあ外

貞徳 道職 法親

花の根より取りてやんくき
 露をすいおまじりあまふ
 氏久
 多んあ乃花をんやまふ
 氏を
 月乃之の露いあみこ鬼あま
 成
 野うらよすくねとあふ
 幸和
 すまふまなをさやねたりあひ
 日
 月り出ぬ國出乃菓子こころあ
 日
 と上鵬よ橋まのうするしこまう
 日

ぬまておまはく物やはあのか
 日
 野原よやろる風あのかまや
 針日
 きんけあやま乃整てら
 佛のた
 去久
 物さのよよくたをひをけ
 合仙花
 起る
 佐保娘乃若きう道具
 眉作り
 照是
 多んあをあてやろ
 報紳
 二並
 てくはそ野うらに
 出こを
 茶
 西彦
 野にありふ人乃お
 伽う
 ぶこ
 家
 次

頭痛せぬ山ふももゆるくく山
取直
去し乃しあ蘇乃りりとも
鬼あさ見あしりに出る餅乃在日

具足を具行

ふぬをえあけまきいん
存人を行くやん
さあいん
日

お節

節に節て地やかきわらるはくし
一乃節よせせんらるやはくし
お節中てかえ本や徐お節日
はくし
よあさけはくし
道風ようこくやわし
わりのはてん
章和

まんろくは等々のまろくはくはくは 照見
袴きて時直をやのふはくはくは 良昌
常乃身と等々なれはくはくは 常久
はくはくはくはくはくはくはくは 忠海

若和布

けは子もろくはくはくはくはくは 貞徳
はくはくはくはくはくはくはくは 幸和

かはきするもの姿もわらふる 幸和

五月

えよひし人禁石強をやくは月 貞徳
三月乃のちやえはくはくはくは 倫用
月た教かくとと妻やわうのあり 雅玉
天乃子のうわ子と出るを即月 貞徳
まつきとえよひる月らなやよひか 幸和

下もれつて鏡りくゆるま乃月を
面風やうれく筆やえる月を元
かすまやよこれく見ゆる月歌 幸和

飯后

多あつてまのりひんか
かりかひや律後よ入るあめは 道
むれ乃龍脚のいそよかふる后 貞徳

かりと兵乃文字の流せうか后日
は羽黒やとねをあらうてう后日
花よりとたんとやありてう后日
あさりする程やうらんか后日
あつてくつ綱乃中てや飯后日
二三羽も通やげせよと后日
のせうつ越路乃后や坂むと日
けよるるかみえをうら飯后日

百姓の居をともく田の風徳を
目も鳥も都にいつやの居親を
天乃戸をともくまのふの居日
なるあやの一字千金の居日
やくそく此のあもあふの居日
鳥のいのちもふもあふの居玉琳
おけの居もやうをともく月を
玉章の居もあふの居日

毎よれ建棟にありつかつたる居
可乃字のあすもあふの居幸和
鳥乃の文字のあすもあふの居
やかりてやあ乃綱をともく居
かいあつて秋は例よりやあ乃
都するやあつてあつての居親
くの乃あつてあつての居宗富
あつてあつてあつての居先

佛別

月々ききなり一佛成りれば
天命の月も福も人乃香か
あつても鼻の風くや福
親連

二月廿五日東福寺あり

禪寺の花よるく延りてか
ま

榎

自号を叫ぶらん元和榎
花入乃口よりさくやむ
本よりよるくそ花乃大
は日々八千さよのほ
よせばきの枝やまん
小榎乃ともあつて
ひねりてよむもよろ
おられしはゆるや
当

岩戸やひらげの白一任務松 親を
きく尺よやあまをりね任務松 曰
枝くをきくや下和り玉はさき

徳那階よ

白髻をかこふ屋々う松う分 曰
みうあわくともまぬくこの松 宗明
はきふよさげらや如意乃玉松 氏重
いろくよ庵んする花はなげか 宗親

花や露みかすい志やう乃玉松 幸和
月まこつて尺よやあまの玉松 親
らあゝ花とまじう松か 親
ららくと目あし乃むやう松 三直
竹乃中にさうのみともや敷松 曰
まのより花やはらけり松 正之
まあて尺ききこくは松 政継
花さけとい乃や珠枝は玉松 政公

花もゆきをとりて松乃油も
花よ葉をかくるやもれも松
白むらけえととくハ昔はき
もぬよしのびく一足の松も日

初年

あまもやも初るれいありと
あかりきれた

初ひきんぬり道もあけ
幸能

花

なまやとあぬまのやい
大急酒のこたうぬえまの
花乃香をぬとくくけ
花の香を鼻てぬいある路
飛屋とくく

可きもまきしん花乃と也か
ぬよらぬや歎か—お孝の

頃干しあそく

行平ハ松風いよすぬ乃花

誓願寺あそく

立花ハあよい志ん乃浄也外

過善よ

行人ハ浄也乃志花尺外

落行ハ臆病凡々花軍

子をまうけしん人真行よ

祿あそそく書しそよ花のぬ 貞徳

あよ海くりるや花乃矢教 日

咲らるも志しぬいそ花多けか 日

まん—や風よらうらう花のむ 日

光堂乃むと

花尺せんいよや—何ゆゆの光堂 日

かきり屋あし

急かひけつ不まひひけむれ意日
あまのりん果や目利乃を盤 貞成
毛を少くや虎乃有もちる花枕 法一
花乃教もち述し魚女乃安北日
花さげと燈促するやぬれあう 祐信
牛乃總も香よひうくや花車 利法
又とんぬ人ハ一花あくろれ 孝晴

侍を連て花いすの木のふか 未昆
花をぬぬきさ落すやぬれ親 色一
塩の海乃よりりあつる花乃露 常利
いふ夜もうきんぬやぬれ滋 易勝
花乃為や魚の子里れ去の風 未友
連舌の師一りぬとハ何人花枕日
虎乃有やちつともあまの庭 道茂
床よ花をけらとて

あり敷よ麻のうら花をこやこかま可
曇てかくれ冬うそ繪をうらと一
花も今朝何をえたりや寺は庭 休音
死やまんくをうら花のうぬ日
花乃歌そまぬらてむせり嵐日
あやまはるう十ふ盛や花のぬ日

あつ寺あく

らる花の列子風よたり乃庭 志音

吉凡よこそくうねくや花の尖 休甫
吉野残て山をやけら乃むらり日
花乃下よくうそ首菓子や吉野権 氏を
蝶もも頃乃舞せよむ乃庭 日

志賀あく

思ふれあるにほけ志賀は花 心連
科は何花をけららぬは日 日

高野一尺の時

高野一尺の時

花乃名をかしや次平不動坂 貞継
あふ花さくさ河堤のりふ小 成あ
あつちの花乃錦を志とねか 貞徳
ひもとくやま子令乃花袋 日
花乃香い赤梅檀う釈迦乃嵩 日
川の淵乃紋雨やえ交袋 信
風乃おほう花よ鐘楯乃札うら 長吉
花軍伴もするや 三具とく 政盛

ひまといと花乃都此細亦 日
咲む干二ひとい人乃小袖うら 吉久
絲うろひく尺くやああ花延 宗信
系柳よれて緒よるれ花袋 日
日乃月えんぬ教うらや花うら 宗富
ふくれ結本や老のゆりむ 日
木の下にみかやまうし乃花尻 札子
風うららういゆまのむらを 長運

花乃下にむささぎのやせう髪三並
むくははるまき世袋外重政

う河乃屋あく

九重れ花よまはらや十人こ 宗明
花あさよくとまきさるや系柳 報を
花あ建誰も同くう垣のえき日
天も花よ酔るう雲れ乱あー日

う野あく

八重うに咲やう野の若れ花日
花も火をとよせやぬらんうや山日

吉野あく

うほあうて皆花ぬり九吉野山日
花をたふ心はうー野まのう水日
ゆゑ百のんや花よそ火山神日
立花乃下木の苔や作り盤日
花ひと川ぬりくはらう子あが日

或寺あり

經卷八法乃花はわきうる日

禪ちあり

いろりう是庭前乃花乃枝日

花乃香をほむあやうさ物日

おあしく花めき人よまは日

火とともむ乃油燭うす霞日

ちる雪もまや花の澹 靑藍

楊貴妃乃花の心戀ありかきれ

彼屋とて慈悲よわらすむある日

常やあまるとるは花乃澹日

ぬいおや舌ハ祖父のまは花日

思ふ中や垣する花乃心を霞日

尺よりれむ乃あゝやに海浪日

塙ありて

塩とふふき花や浦れ彼日

紀別あそく

花よ風の提婆うゑり秋也あそく日
尺る花も氣のこゝをすす梢の日

初瀬りて

花やまてあそくらくにん初瀬る日

吉岑あそく

うゝあそく花や目業氣あそく日
花乃表をあそくくもる乃鬼か幸和

風よ花らりくくあそくあそく日

花よ小袖交香あそく建都人日

坪の因乃花尺をすすあそくあそく日

あそくあそくあそくあそくあそく

花心もあそくあそくあそくあそく日

あそくあそく

あそくあそくあそくあそくあそく日

あそくあそくあそくあそくあそく日

狼藉をたのうてまするは花か日

うー野あ〜

うー山はくふは花乃あじか日

名ふも似と花よふとるー青風一村

青

櫻

うらぬ月を待やましく乃糸櫻
西露の思をさ〜あやめ櫻

足る人やこ〜やうにらると櫻

櫻田公あ〜さか娘乃志乃小

初夏の吹ふま〜うとえ櫻

はまはあ〜人や子さ〜葉櫻

山凡乃西語とらよ〜か〜櫻 宗

ひやう〜と廣庭ま〜け大櫻 以意

体〜おれ七市は膝を八意櫻 市時

娘んはうた〜ま〜水き日た〜あ〜小 良玄

せめく尺てく建ひうん此初梅日
 いくきふも咲も花いきり久日
 白雪かけける綿ううも梅 貞徳
 十町もつけ豆腐乃うも梅日
 我教の志いせやくも梅日
 立るくふ松ハ祖父ううも梅日
 二季にさく彼屋梅乃梅日
 發んうらう熊谷此花ゆり日

三途川截くも尺てや梅日
 河あ月此雲ハ梅乃うも梅日
 今くひう梅も梅乃うも梅日
 女さ白乃花ハ小神ハ梅日
 熊谷此花よるも梅乃梅日
 小町さく梅乃うも梅日
 水野あく連乃うも梅日
 能備を信されも梅日

二百顔乃花や今く八子橋徳元
遠よさくーおれやや娘橋日
風ようこく枝やあやけ系橋日

謠俳諧よ

花乃少役者よとやせ橋川日
箇よ今てらう花火り系橋 子成
音をけし人や逸おの娘 不栗
柳やさうてまうふれ系橋 奈五

ちりぬのさなをも山姥橋日
おとれと礼よや暇をせ橋 西道
あうとやとありてもとんせ橋 其可
番衣や花盛人をまりり八日
孫や子よもさひう身ん娘橋日
花をんぬんか人うい大いりう 一
りけてせけ名も火橋乃石枝日
花親ふもけを境う使れ橋日

加川咲ハ中造作リ家々今ノ孝睦
 白ひかり見そまやう大橋月
 父は香よて海神たてや生橋法親
 考るあく人やよひ心家橋月
 刀戸人ぞあけくはまやくいぬ橋之性
 虎乃毛此花よ追つけいぬ橋光真妻
 風袋口あいとあよつと橋月
 ちのけ一弦やとるの橋月安

石く花ハ多々あう久元家橋 常庵
 咲むい志乃果能そ娘橋 弘院
 山姥乃こころ一おつを橋 聖彦
 りりて又月花とるる橋 壺一
 めくん芝居やありけ生橋 未祐
 掃地せぬ本陰や跡の家さう 廣直
 花よ葉にまうらやありけ大橋 宗仁
 火橋乃たてやあつ松け枝 長益

硯箱繪も墨染のほろろか
ひさくらも理を走りて咲ゆか貞継
花尺もや酔て簾ましく系極 吉次
道くくおりてやお母さ系極 吉次
系宮れよまこふむげや倭坊極 吉次
花乃口ひらくおとひさくら 吉次
火極乃夕よらるハ花尺火小 永治
采ハ枝花はまらうそははさくら 長吉

普賢象は花もおろろ大極 日
庭中に咲やまらひ乃大極 貞光
昔ハ神よそまへくおや大極 利法
姥極花乃あらりやちおへる 氏を
ふらそやららわと思ふと極 日
鼻に似く盛りなるは普賢象 日
名ふおろおろりせよせ極 吉信
あやうやあまも花も姥極 日

葉亦も成伊れ緑々昔賢象日
継とめく花ハ今もや初梅 三並
は手亦もかたしぬもむやわ梅日
さうへら枝や富貴乃家梅 長運
九重よ一重いひうん梅々那 吉久
墨深よさげ慈香れ梅花日
妻も亦もくかんやかんさの初梅 元政
花さうハ借るをもせん家梅 家彦

おもひん名も火梅乃花の文日
花乃教人あやうの梅文 宗明
火をとりの花ハくうぬれ梅日
ぬてよこよくりさしみよ系梅 宗祐
しんまあげ乳のそ子もせん梅 宗富
霞とわまのひあつやきり八日
こはらうよ梅花箱藉きり八日
まのひさし一し枝をたのむ家梅日

くらきをのほらふよのせぬや婿様頼る
 家様枝しそんののつたるまきな正徳
 火梅の姿あらねもちりけの正徳
 尺のふい日本に神そ侍務様曰
 すまきして花よや性の家様曰
 咲はをぬや梅か乃の志はくく曰
 大梅尺くおろくやさる眼曰
 花よ蝶乃舞ハ神あそび梅曰

態首乃うろそまへをえ梅曰
 系柳志月梅乃かけ法小曰
 不ころぬや尻もむすそぬ系梅 款を
 目乃出ぬまの志のころう大梅曰
 くらよ花をやらるり梅梅曰
 何やりをまきそる志月梅小曰
 花垣やこくにまうい乃系梅曰
 梅人乃のりてくや大梅曰

風乃神を美のの路へや伊勢橋日
川一ろいや花乃うかを伊勢橋日
目かけえ山のひさい乃大橋日
釘巻のふえきよ綾や糸橋日

謡御借よ

東風をよちらるゝあ竹橋うかを乳
花のちる路やゆえきの糸橋日
小橋乃んやめ業やよ乃 五日

娘の眉をそひくく山橋日
唇をくきよあてさく日
酒よりもせんー茶てみま姥橋日
一ををわけよ山路乃橋り日
おそく咲花いおきくく寝橋日
大橋風をハ地とん智うもろ日
何是乃門よ植んやめあろ日
いほくくもあてきとんく遊橋日

教時を人乃乃昔も公を極日
 花おろくしよあやける普賢象日
 留みまげまきあめのは乃く極日
 之よれ役やわとくくを極日
 極戸乃用帳多れや花邊り幸和
 何ん今をまよやくし乃系極日
 かく及よ花乃さくく枝りか日
 大月よあえらりしられと極日

坊しつらるるぬハ大工の家極日
 花中を法師とやいんせ極日
 極根をさくくくやむく日
 折とるハ縁の戸あけり極極日
 海きふよまやまこく大極日
 かれく及又火極や海乃下日
 火をこしあやまらす家極日
 まのきせんするハ五月極日

ちる花ハ散米多れや伊勢橋 重政
ゆくは川乃子く 進系橋 尚道

追善よ

あふおや乃ひうん橋を子向水 永直
枝朽をそひちすまきり久 彦光
短冊を付るハ志ぬうと 橋 一村
常乃吾口とりあか入ゆくく 月

橋綱 付橋具

花よりも実こそりまれ橋綱
急も末にたつぬりー橋綱

棟山く

橋綱と海やまよせん志不ひ水 重次
と海やまよ実志不う度代橋綱 長吉
山や吉燈てぬ久橋具 日
尺不末よや浪乃花く橋綱 吉久

花乃浪多んらやのりて振綱 親を
釣舟よいけて尺より一振綱 日
實せとは是をやいそんはを綱 日
振綱八浦乃皆居れ花尺外 をれ
振綱河川と河川もきり久 幸和
鯉、游来よ咲乃か建振綱 意和
むよりやも先そくきる振綱 長運
振綱八花尺ぬ人乃ゆらふ 正之

七ノ三十一

海よすゝまの名をのりや振綱 家正
花さくくかゝ思ひそや振綱 日
浪やまの串やも本れ振綱 徳元
あきくらゝぬらうこや花乃振綱 休甫
振綱すゆるいぬひをわきま 正
盃よ花やとりさげゆくら 朝 親
はりあゝゝ綱やそのまゝ系振 親
おくりや朝日とともぬ振綱 一村

七ノ三十一

去もよすもよきもれや橋綱日

梨花

橋よそれてなみー花盛り
花らき及何乃尺かもろ花幸和
早下するやせよるとい花の穂氏重
去乃よ吹と神てやろ花親重
花尺進く痛もろ一花除小蓋

ら進ハつろ方せころろ一花尺心貞健

西少れと花乃をそそれ

咲やうて西や西自ろ一乃花市親
咲花乃らり西庭や銀や地一村

辛夷

その進ぬハ順乃ふ一花尺心成安
咲枝を折るもにきりころろ花

子と出まふふ一乃花下蕨貞述
多んこり花をもにまらふ州を光

海棠

海棠の花あつひまきり乃音正述
おしんやとゆもつらむ祝氏を
海棠もけまへらぬらつてか親を
海棠や咲くらつて二花あり 意軒

海棠乃花あつひまきり乃音正述
かいつれあつひまきり乃音正述
ういぬういぬをりかげらる花尺八曰
人乃目いさむる海棠の花ありか貞能

桃

花乃名ももつれいひあつて香か
百及よさうすはいうふあり乃を

礫あつく花乃多うくすこい桃 貞徳
るてさする花は玉母りけりる日
桃乃酒もあふはくくつふこい
くららつてまきおひる桃乃む 報重
進さうくくつとさうりれりたむ 意次
くむ酒よりあのみ多や桃乃花 正徳
ま露はらるう桃乃末酒うか 意次
名よめやそそけこひあつ花翁 玄心

子あんとそそけりよる花尺か 宗昌

杏子

志あれくへ行かあんま桃乃又 貞徳

鄼燭

お人乃小袖もあんれつじか
花よりや下戸乃目まはくあつ 意次

めんこりありとる花うめり也 報を
うもた父よ花もつきせりめり也 ぶふ
まうや大てこらうくた花乃枝 豊親
ひらゆきの父やめはき乃めり也 貞徳
まふくハ妙は蓮華はくハ日
うもたの母めりうに咲やめり也 日

賀茂あはく

織色ようこくこんれつーハをれ

おろこんる賀茂乃社壇たつしハ政公
おろよ咲やうのきまーハ政公乃幸社
おろりこく父やめりめり也 圭琢
おろしてんよひりーハやまぬはり 意孫
石よ花乃咲ぬめりや若下 宗奇
はげや花大政友乃めり也 政倫
折雲乃政ふまうーハめり也 意元
おろ人のよにく花やめり也 意佐

花あらしの多よははけりや一村

藤

花はくはまじりや寸白松少くり
菘こふ乃らうらうらふ細ぬきまひか
非松乃帯り腰まく菘うらう 貞徳
くらくとまじりて見るや菘うらう日
子のみをよくせまじり 松乃菘日

松まじり菘れ去るひや柳せ流日
絲らもりていさふんゆうん菘れ日
松少くりまじりや菘れ力藤 菘菘
花くははけり松まじり菘 光を
に言ふ乃あまかりや菘うらう 親を
櫻路り寺れ新そのけり菘日
菘よるの河袖らあけらう柏水日
菘乃松まじり新や彼れ年 幸和

もひつる花いぢこり姫小松政直
おくくくくぬや花乃力こふ
花乃花乃すりの花乃真光
さうさるとまよの法よあり花盛一
松ささうけつる花乃花乃花乃
花乃え乃けつるやとん松あり日
松よりも妻命るくけつる花乃花乃
花乃まのけつる花乃花乃花乃永治

姫松乃さうや花乃花乃花乃
永治日もかうけつる花乃花乃
花乃よよけつる松乃花乃花乃
松乃乃花乃花乃花乃花乃

歎冬

あまのりんかまのりんかま
あまのりんかまのりんかま

歎をわたりおなや合る地をれ
山吹の河乃乃おくやのまき一
山吹ハ是彼者乃こまうか一

草

露のましむしむしむしむし
はまのこまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの

硯や花じうのまのまのまの
番道乃乃すこひるれやのまの

茶摘

くま音あまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの

茶と摘——昨日やあめの初昔一村

蛙

よんうひて鳴や蛙乃ああり
まわりりなくや蛙れ可ありを
鳴ふ急いあり念佛りあぬ蛙
常と蛙乃う急やあありせ 親を
軍場へ行く出せやあひし蛙 曰

あありよるるや蛙乃古はく 曰
苗代をせむかあ川乃りくさか 未海
やり水のほくくくくくなく蛙 宗俊
おほく出で思はくわすあひり蛙 盛親
蛙子をうとあうくく川をさか 幸和
かあうくくまひく虫あめの役 曰
川中て蛙うあやせんとうあ 彦れ
軍や男くくせくあぬ蛙 宗仁

和子師匠とて常と陸の家貞使
かゝる子たうふゆるわらむ地乃あ 道の
露乃玉とのかげさあさるやあ使蛙 正章

去郭云

去やもよくかゝるよまなく郭云
常乃子あうよまけりてきん 徳元
去うくや天下一このかゝるまきま 武法

暮去云

去うく行去やあ乃用やあり 休音
尾のあきもえいごとああやあ使者 貞徳
去も日さやけきうあのかゝるまきま 武法

雑去

去ん丸よいつれと永き去日か

賣りつゝあゝひるん石小米花
かへけりきくさきめや足山椒木 貞徳
ゆゑ久り世にさくさくのゆゑりか日
牛乃子にけり角くむき藤水 徳元
永き白を三日よるせりしるぬ小 盛徳
言 聖あゝく

永き日に徳圓一見率都婆小 親孝
皮をさきく何ふくせんぬ山楸 日

伝者あゝく

伝乃江の八条やけ浦れま日

幸あ良あゝく

正神もあゝりあゝくははせ日

天日寺あゝく

萬のりりあそ森井はま日
天つ下よとけくハ永き日足小日
おくてつよ海付し名をけりあを成

曲ありあまたある日乃酒宴かを
延ありあはひある喜は日足か貞竹
あさるや石田をかへと鶴城無 吉久
永き日て蹴はうすこ乃衣か氏を
繪よ書し一兔乃身は日か堅結
小田をしど志やうやあをせと 幸和
永き日よよや天下太平記 三並
あつ神よ花をちじ乃池わけか 宗吉

あつるもあつる日朝ハ朝絲水 政直
海去乃子もあつるあつる日
是れ日とおうむら乃珠教あり日
あつるをいそり志と志あはら 忠海
あつるをあつるあつる小未死 休奇
あつるあつるあつるあつる 苗直
あつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつる

1
喜風ハ梢スルユラトシヨミノ家
山只去乃若路ヤ此初リ盤曰
向ス所ニハ多ク一棹も志此竹
海山をまゝけて水子日足水一村
若クハ此子付此といろ多日
舟ありて此の舟かゝるや車急ハ日
皮多うて者まきにする鏡の家日
鏡乃内て居せてや程も崔骨日

昭和九年七月廿五
水口孝次氏在と記す

吉子板介了

込也 花



